

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372300752		
法人名	有限会社たつみ		
事業所名	グループホーム悠遊荘		
所在地	愛知県瀬戸市市野町8丁目221-1		
自己評価作成日	平成22年 2月 6日	評価結果市町村受理日	平成24年 3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372300752&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも笑いがある、それぞれの利用者さんが求めている生活にそっと寄り添いゆったりとした家庭的な雰囲気の中、利用者さんの家族、来客、見学者、地域の方々にもいつでも来て頂けるよう、笑顔いっぱいのグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の入れ替えや職員の異動が少なく、「普通の家で生活し、楽しい人生を送る」とのホーム理念の実践が可能な状態のホームである。どの職員もこの理念を理解しており、家族然とした雰囲気の中でチームワークの良い支援を行っている。
前々から、その人らしさを支援する「個別ケア」を実践しており、「ホームに来ない妻を思いやり、老健施設にまで面会に行った男性利用者」、「介護計画に取り上げて、熱望する妹との外出を実現した利用者」、「実現できなかったが、大阪にいたかつての同僚看護師(死亡)との再会を望む女性利用者」、「昔のように琴を弾いてみたい利用者」等々、事例は枚挙にいとまがない。
協力的な家族や献身的な地域住民の、側面からの支援参加も見逃さない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員で理念について、会議で再確認をしながら話し合いを行っている。	「今になって、やっと管理者の真の気持ちが理解できた」とは、ヒアリングでの職員の弁。崩壊寸前であった家族が、「普通の家で生活し、楽しい人生を送る」とのホーム理念の実践によって救われた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶は勿論、立ち話をしたり、近所の方が来荘してくださり一緒におやつを食べ利用者さんとの会話がある。	地域住民の訪問を増やすことを、目標達成計画に取り上げて取り組んだ。庭に菜園を造営したところ、近所の住民がボランティアで指導に来るようになった。夏野菜がたくさん収穫でき、近隣にもおすそ分けできた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブの依頼により、会員の皆さんに認知症についての話をを行った。地域の方から認知症の相談も受けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見に対して前向きに捉え職員で話し合い少しずつではあるが実現に向け取り組んでいる。	平日開催のため、毎回市や地域包括支援センターの職員の出席がある。地域からの参加者も多く、現況報告のほか、目標達成計画の進捗報告や意見交換を行っている。	地域密着型サービスの知見者(医療従事者、同業者の管理者やケアマネ等)をメンバーに加え、さらに会議が充実度を増すことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者福祉課担当者、地域包括センター職員とは、何時でも相談することが出来、アドバイスが頂けている。	運営推進会議には、市の高齢者福祉課や地域包括から、毎回出席がある。家族からの依頼で、管理者が代行して市を訪問することもしばしばであり、顔なじみの関係を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを職員全員が熟読し認識している。	身体拘束や高齢者虐待に関しては、「言葉遣い」にも重点を置いて取り組んでいる。入浴支援の現場では、「順番が来ました」とは言わずに、「お風呂の用意が出来ました」と、利用者の手をとる職員の姿があった。	管理者の説く、「拘束や虐待の根源は“職員都合”の介護」の精神が、職員に周知され、支援の現場で実践されている。どの職員と会話していても、ブレが無くて気持ちが良い。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関係書類を職員全員が熟読し認識している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを事業所に何時でも閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、来荘時に意見等を聞く機会を設け前向きに取り組んでいる。	家族を呼んで食事会を開き、その後で家族会を行った。家族からは感謝の言葉が多いが、意見や要望には前向きに対応する姿勢を持っている。毎回、家族アンケートでも満足度の高い結果が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は意見を聞く機会を設け、話し合いを行っている。代表者は多忙のため行っていない。	毎月のホーム会議では、全ての職員に発言の機会を与え、職員の平等、公平な関係を築こうとしている。気になる職員がいれば、管理者が個人面談で話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前からの職員の要望である休憩室が完成した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員がそれぞれの立場や能力に応じて多くの外部研修やセミナーに参加できるように促している。研修報告はその都度職員が熟読している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	第1回瀬戸市グループホーム・小規模多機能交流会に管理者、職員が参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に会って、心身の状態や本人の思いに向き合い職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談し、これまでの経緯についてや不安をじっくり傾聴し安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人と家族の思いを聴き入れ状況を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんと共に毎日”ゆっくり、一緒に楽しく”過ごせるよう、そっと寄り添い家庭の雰囲気大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来荘時には介護記録を見て頂いたり一緒におやつや食事を食べたり、誕生日会には参加の声をかけたりしている。月に1回、利用者さんの様子をお便りと写真を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他施設にいる奥さんの面会や妹さんとの外出や来荘して頂けるよう継続的な交流ができるように働きかけている。	ホームに来ない妻を思いやり、老健施設にまで面会に行った男性利用者がいた。妹と帯同しての外出を熱望する利用者を、介護計画に取り上げて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通の話題の提供をし、お互い楽しく過ごせるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に面会に行ったり、家族の方の来荘がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々利用者さんに寄り添い、言葉や表情から思いを推し測るよに努めている。	思いを察して、実現可能なものは即座に対処している。可愛い孫へのプレゼントに、カーデガンを編み始めた利用者がいた。編んで解いてまた編んで、何度も編み直して素晴らしいプレゼントが完成した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や背景を把握し、利用者本意のサービスになるよに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの状態を把握し、できないことより、できることに注目している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人の思いを聴き入れ家族の方も交えて話し合っている。モニタリングは月1回の会議で意見交換をしている。	「大正琴を、昔のように弾きたい」との思いを持った利用者があり、介護計画に取り上げて支援した。大正琴教室で断られたり、本人の目が不自由になったりと、断念せざるを得ない状況となった例もある。	利用者の思いが実現するに越したことはないが、実現しなくとも、「思いをかなえよう」との職員意識が貴重。これを踏み台として、次の取り組みへとつなげてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに記録し、職員全員が出勤時確認することによって情報を共有し、実践できるよう努めている。見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化やニーズに応じて、その都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流センターにて開催された高齢者お喋り会に参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診を行っている。入所前からのかかりつけ医院を希望される方も1名いる。	糖尿病の持病を持った利用者以外は、全てホームの提携医をかかりつけ医としている。提携医以外のかかりつけ医への通院は、家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回来荘があり、利用者の健康管理や状態変化などの対応について相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医より紹介状を作成してもらい、ドクター同士情報交換できる体制でいる。入院中は職員が家族と同席し医療機関関係者と退院に向けての意見を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、説明を行い同意を得ている。	一部の職員からは不安視する声もあるが、看取りの実施に向けて準備に入った。円滑に実施できるよう、かかりつけ医や家族にも協力を呼び掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を毎年受講するように努めている。緊急マニュアルも事務所に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6・12月の合同消防訓練を実施。自衛消防訓練は年間を通し11回実施した。地域の防災訓練にも参加。	スプリンクラーが設置され、地域の住民にも参加してもらって、夜間想定避難訓練を行った。毎年、職員全員がAED講習会に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの個性に合わせ、その方の人格を尊重した言葉かけをしている。	職員は、常に利用者を“目上の人”として意識し、言葉遣いにも注意を払って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員とが馴染みの関係を作り、本人ができることや興味を引く事を提供しながら、自己決定できるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調やその日の気分に合わせて、一人ひとりの思いをくみ取り、ゆったりと1日を過ごすようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髪の毛をととのえたり、入浴後化粧水、乳液を自分で塗り、みだしなみを職員と一緒にやる。自分のこだわっているスタイル(スカート・カバン)を保てるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採ってきた野菜を使い、食事の準備から片付けまでを一緒に行っている。	利用者全員が食事介助なしで、思い思いのペースで食事を摂っている。肉料理が苦手な利用者には、代替えの目玉焼きが提供されるなど、個々の嗜好や好き嫌いにも配慮した食事支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのその日の体調を把握し、その方にあつたバランスの良い食事を提供している。食事以外の水分補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は利用者の状況に応じた口腔ケアを日課として行っている。職員が常に歯の状態の観察を行う。夜間は義歯洗浄剤をしようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿リズムの把握により夜間のリハビリパンツから綿パンツになった方がおり、自分から尿意を伝えられるようになった方もいる。	自宅や多施設から転入居した利用者に関し、排泄改善された事例が数多くある。今回の家族アンケートの中にも、「紙おむつを使わなくなった」との感謝の言葉もあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に毎日ヨーグルトを提供したり、献立も工夫を行っている。個別に便秘症の方には乳酸飲料の提供を試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入眠前の入浴を行いたいため、午前から午後の時間帯に入浴できるように支援している。入浴時のコミュニケーションを大切にしている。	基本は毎日入浴であるが、入浴を好まない利用者は1日置きとなることが多い。入浴の見守り支援中には、利用者職員とが屈託のない会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。食後の休息をとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が内容を把握できるように、個人ファイルに整理してある。利用者の状態に変化があった時は主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握し、気持ちよく行うことができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や庭に出ることを積極的に行っている。なじみの場所への家族との外出の支援をしている。	庭へ出て菜園の手入れをしたり、散歩をして地域と交わったりして、生活のリズムを作っている。家族帯同で小旅行を楽しんだり、外食に出かけたりして生活に張りを持たせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人の方のみ個人の財布を事務所で預かり外出時渡している。おこずかい基本は事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があれば事務所から電話をかけている。職員からの声かけにより電話で家族と話すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることでできるもの(雛人形、五月人形)を飾ったり、地域の方や家族のからの花も置いている。	当日、琴のボランティアが訪れていた。演奏者である先生(母)、その娘と孫、三代揃ったボランティアの演奏に、利用者の口元からは歌声が出ていた。四月から保育園に通うお孫さんは、利用者や職員のマスコットの存在である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖かい季節の時は玄関にイスを置いて外を眺めることができるようにしている。今後、少人数でくつろげる空間づくりを行いたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの作品を飾ることで、居室での会話ができるよう支援している。家族の写真を貼ることを家族と相談して行った。	畳替えを機に、和室からフローリング仕様の洋室へと改装が進んでいた。応接セットが置いてあり、生の花が飾ってある洒落た居室もあった。どの居室にも洗面台が付いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	二人の方の身体状況の変化により居室の手すりを設置した。玄関の下駄箱などの配置、固定を行った。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム悠遊荘

目標達成計画

作成日: 平成 24年 3月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25	利用者さん一人ひとりの思いや願いをかなえられるように支援する	実践につなげられるように職員一同が働きかける	一人ひとりを知る為にセンター方式を利用する(学ぶ)	12ヶ月
2	25	同上	同上	生活歴を知る為に家族の方に協力を依頼をする	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。